

グループウェアシステム仕様書案（ガルーン 6.0.0 相当）

1. ソフトウェア概要

本システムでは、情報共有により事務作業を効率化することを目的とする
将来的な運用負荷軽減を考慮し、原則パッケージシステムの採用とする

1. 1 基本要件

- ・ 将来における利用者増加、データ量増加に対応できる柔軟なシステムであること
- ・ 操作における応答時間は、ユーザーにストレスを感じさせないレスポンスを確保すること
- ・ システム利用にあたっては、ブラウザのみで利用することが可能なこととし、その他のプログラムなどをインストールする必要がないこと
- ・ システム構築にあたっては、現状稼働中の他のシステムに極力影響を与えない構築方法をとるものとし、仮に影響を与える可能性がある場合は、事前に申請し、許可を得ること
- ・ システムは現行のネットワーク環境で利用できるものとする
- ・ オンプレミスを前提とし、当院の仮想基盤にセットアップ可能であること。
- ・ ネットワークプロトコルについては、TCP/IP に対応していること
- ・ システム連携におけるオープン性を確保し、汎用性の高いシステムであること
また、使用する技術については、国際的に広く採用されている技術を用いたシステムであること
- ・ グループウェア機能全体の情報を集約する、ポータル機能を有すること
- ・ ユーザーID とパスワードによってログインするものとし、ユーザーID によって、必要に応じてアクセス制御が可能なこと
- ・ ログイン名の文頭/末尾に応じて複数の認証データベースを使用できること
- ・ 通常の組織、個人、という単位とは別に、アクセス権を設定する単位としてロールを持ち、組織とは違う単位でのアクセス権設定を可能にすること
- ・ ユーザーにロールの選択を許可するかどうかの設定ができること
- ・ 必要に応じてユーザーの操作履歴など監査用のログの出力が可能なこと
- ・ 監査用のログについては、機能ごとに出力有無や出力レベルの設定ができること
- ・ ~~目英中の三ヶ国語に対応すること~~
- ・ 将来利用ユーザー数が増加した場合でも高速処理のできるオープンソースのデータベースをプログラム内に内包していること
- ・ データベースはグループウェアに同梱されているものとし、別途データベース関連

の構築を必要としないシステムであること

- ・ 各機能のアイコン表示部分を表示したり隠したりすることができること
- ・ 初年度ライセンスには初年度のソフトウェア保守が含まれること
- ・ ユーザー追加が必要となった場合、1ユーザー単位で追加可能なこと
- ・ 添付画像はサムネイル表示（縮小表示）ができること（スケジュール、メッセージ、掲示板、メールが対象）
- ・ PDF ファイルをシステム上でプレビュー表示できること

クライアント OS と対応ブラウザは下記の通りとすること

Windows	Microsoft Edge 最新版 Mozilla Firefox 最新版 Google Chrome 最新版	iPhone／iPad	iOs, iPadOS, safari 最新 2 バージョン
Macintosh	Safari 最新版 Mozilla Firefox 最新版 Google chrome 最新版	Android	Android Chrome 最新版

1. 2 管理機能要件

- ・ ユーザー情報は組織、ロールの設定が可能であること
- ・ 組織、ロールに合わせたアクセス制御が可能なこと
- ・ ユーザー情報は組織ごとに運用管理者を設定でき、運用管理者が当該組織に所属するユーザーの追加、変更、削除等が可能なこと
- ・ ユーザー情報の項目を自由に追加でき、公開する項目も選択可能であること
- ・ ユーザー情報の項目は、ユーザーにより変更可否を項目ごとに設定できること
- ・ ユーザーの働き方に応じて、稼働日、稼働時間を設定できること（例：フレックスタイム勤務、時短勤務など）
- ・ アプリケーションごとに、使用、停止が制御できること
- ・ アプリケーションごとに、使用するユーザーを個人、組織、ロールの単位で設定できること
- ・ 外部からのアクセス時に、個人、組織、ロールの単位で利用するアプリケーションを設定できること
- ・ 各アプリケーションの名称を任意に変更することが可能なこと
- ・ 各アプリケーションにアクセス権を設定するための運用管理者を設定できること
- ・ 各アプリケーションのシステム管理権限を委譲することが可能であること。
- ・ シングルサインオンの設定が可能であること
- ・ シングルサインオンは GET 認証および POST 認証が設定できること

- ・ シングルサインオンで GET および POST するパラメータはユーザー情報から任意の項目を指定できること
- ・ 組織の事前設定（反映日時の設定）ができること
- ・ 兼務対応として、ユーザーが複数の組織に所属する設定が可能なこと
- ・ データを保持したままユーザーを停止することができること
また、停止したユーザーはライセンス数としてカウントされないこと
- ・ 各アプリケーションに、閲覧、登録、ダウンロードなどの監査用ログを取得が可能であること
- ・ 出力されたログをアーカイブし、XLSX/CSV(UTF-8)/CSV(シフト JIS)形式で保存する機能を有すること
- ・ ユーザーの画面表示にかかる設定を管理者が一括で変更することができること。

1. 3機能要件

①ポータル機能

- ・ 専門知識を必要とせず、グループウェア上の情報を集約して表示できるポータルの作成が可能であること
- ・ ポートレット（ポータルの部品）はドラッグ&ドロップで配置できること
- ・ ポータルごとにレイアウト（幅調整）を設定できること
- ・ ポータルは、全社ポータル、部課ポータル、個人ポータルを設定することができ、必要に応じて担当課または個人によるポータル作成が可能であること
- ・ ポートレットは HTML 形式で作成可能であること
- ・ ポータルまたはポートレットに対して、必要に応じて個人、組織、ロールでのアクセス権の設定が可能であること
- ・ 個々のポータルおよびポートレットの作成権限を、必要に応じて個人・組織・ロールに委譲することができること
- ・ ポータルの作成画面にて、特定のユーザーによる画面表示を確認可能であること
- ・ ポータルの公開・非公開を切り替えることが可能なこと
- ・ ユーザー自身でログイン時に最初に表示するポータルを変更できること。
- ・ ユーザー自身も My ポータルの作成が可能であること
また、この機能は管理者によって利用の許可を決定できること

②掲示板

- ・ 各社員（職員）にお知らせをする文書を随時掲示できること
- ・ 記事を管理するカテゴリを作成できること
- ・ 掲示板のカテゴリごとに運用管理者を設定でき、運用管理者は当該カテゴリに限り、

システム管理者と同等の管理権限を有すること

- ・ 運用管理者は、管理権限があるカテゴリに対して、別の運用管理者を設定できること
- ・ 掲示板カテゴリごとにシステム管理者、または運用管理者により通知の設定をすることが可能であること
- ・ 通知設定済みのカテゴリに新規記事の投稿、更新があった場合には関係者へ通知されること
- ・ 掲示を変更する際に、更新通知を送信するかどうかを設定できること
- ・ 掲示板のカテゴリごとに、個人、組織、ロールでのアクセス権設定が可能であること
- ・ 掲示のカテゴリごとに閲覧権限と通知先を確認できること
また、システム管理で、閲覧権限と通知先確認機能の使用を許可するかどうかを設定できること
- ・ 掲示板のカテゴリはツリー形式で表示ができること
- ・ 特定のカテゴリをポータル画面に配置することができること
- ・ カテゴリ内で記事の作成、閲覧、コメント欄作成、ファイル添付ができること
- ・ 掲示の作成または変更時に、差出人のほかに掲示の変更または削除を許可するユーザーを設定できること
- ・ 掲示板ごとに個人での購読通知の設定が可能であること
- ・ 掲示板ごとに開始日、開始時刻（時分）、終了日、終了時刻（時分）を入力することで掲示期間の設定が可能であること
- ・ コメント機能を有し、記事にリアクションが可能なこと。
また、コメントの許可不許可については記事ごとに設定できること。
- ・ コメントにて宛先指定を行い、特定のユーザーに通知を送ることが可能なこと。
- ・ 掲示板の記事本文、コメント欄にて画像を挿入することが可能なこと。
- ・ 文字を装飾可能であること
- ・ 未読の掲示板記事、コメントについては、背景色が変わり、未読部分の識別が可能であること
- ・ 文書のキーワード、登録者および日付などにより掲示文書の検索を行うことができること
- ・ ログイン名に加えて、組織名での投稿が可能なこと
また、「直接入力」を使用して、差出人を直接入力できること
- ・ 通知先に設定されているユーザーが掲示を閲覧したかどうかを確認できる機能を有すること
- ・ 掲示板内の書き込みに対して、「いいね！」などのリアクション機能を有すること

③スケジュール管理

- ・ 各社員（職員）のスケジュールを簡単に閲覧できること
- ・ スケジュールについては、個人、組織ごとに1日、1週間、また個人ごとに1月のスケジュールの閲覧が可能であること
- ・ スケジュールの日表示については、各社員（職員）の稼働時間を判別できること
- ・ スケジュールの一覧画面ではタイトルを全て表示/一部表示など、表示を簡素化し、スクロールを少なくすることができること
- ・ 個人の日予定/週予定はドラッグ&ドロップで移動できること
- ・ 日表示画面と週表示画面では、複数のユーザーや施設を自由に選択して、1つのビューに予定を並べて表示できること
- ・ スケジュールは種別によって色分けできること
- ・ スケジュールにファイルを添付できること
- ・ ファイル添付の使用は管理者で設定できること
- ・ スケジュールの登録時に開始時刻を設定すると、自動的に1時間後が終了時刻に設定されること
- ・ スケジュールの印刷画面（個人月表示、個人週表示）を用意していること
- ・ 携帯端末などとのデータ連携のため、iCal形式でデータを出力できること
- ・ スケジュールの一覧画面からユーザーの在席状況を確認できること
- ・ スケジュールの一覧画面からユーザーへの伝言メモを登録できること
- ・ 各社員（職員）の詳細スケジュールに対し、コメントを書き込むことが可能であり、誰がいつコメントをしたか判別できること
- ・ 書き込まれたコメントに対し、特定のアカウント、あるいは予定の参加者全員を宛先に指定し返信可能なこと。
- ・ 予定本文とコメントに対し、「いいね！」等のリアクションが可能なこと。
- ・ 繰り返しの予定を登録でき、繰り返し条件について毎日、毎週、2週間ごと、3週間ごと、毎月第〇週と細かい指定が可能なこと。
- ・ 繰り返しの期間は、最長5年まで指定可能なこと。
- ・ 権限の設定により、自分が所属している・いないに関わらず、組織別にスケジュールを一覧表示することが可能なこと
- ・ 組織とは別に個人が作成したグループ（Myグループ）のメンバーのスケジュールを一覧表示することが可能なこと
- ・ Myグループには、ユーザーに加えて、施設も登録できること
- ・ 運用方針により、個人、組織、ロールでのアクセス権設定が可能であること
- ・ 個別スケジュールごとに、公開、非公開の指定ができること
- ・ 自分が参加する予定を後から変更し、不参加とした際のほかの参加者への通知の有

無を選択できること

- ・ 他人が自分のスケジュールを変更、削除した場合、必ず通知が来ること
- ・ 他人が登録した予定を削除する際、警告メッセージを表示すること
- ・ 施設を利用するスケジュールに関しては、利用施設を予定一覧画面で確認できること
- ・ ToDo リストに登録した ToDo の締切りをスケジュールに表示できること
- ・ ユーザー毎に任意で選択した地域の天気予報情報を、スケジュール上に表示できること
- ・ 設定によりスケジュール上に六曜が表示できること
- ・ 今日の予定に、締切日を過ぎた未完了の ToDo のアイコンとタイトルを表示する機能を有すること
- ・ 予定の一覧画面上から、ダブルクリックにより予定の簡易登録画面がポップアップし、予定を登録できること
- ・ スケジュールは参加者に対する出欠確認機能を有すること
- ・ 出欠確認機能は有効／無効と初期値を設定できること
- ・ 自分が回答しなければならない出欠確認予定の件数が最新情報に通知されること
- ・ 出欠の回答とともにコメントが登録できること
- ・ 参加者から出欠の回答があった場合、スケジュール登録者の最新情報に通知されること
- ・ 参加者の出欠回答状況を一覧で確認でき、回答日時とコメントも確認できること
- ・ 参加者を出席・欠席・未回答のカテゴリで絞り込めること
- ・ 欠席の回答をした場合、自分のスケジュール画面上に表示されなくなる
ただし、予定の変更やコメントが書き込まれた場合には出欠状況に関わらず、通知を受け取れること
- ・ 出欠確認の一覧画面で、欠席回答した予定を確認でき、参加に変更できること
- ・ 出欠確認が未回答の予定はスケジュール画面上のアイコンで判別できること
- ・ 予定の参加者とは別に、予定を共有したいユーザーを設定可能なこと。
- ・ 自分宛の通知は全体宛の通知と区別して受け取れること（メンション機能）
- ・ メンションは組織、ロール、個人に対して指定が可能であること
- ・ なお、組織、ロールのメンションをクリックすると所属しているユーザーを確認できること
- ・ 複数名メンションのあるコメントで「全員に返信する」をクリックすると、メンションされていたユーザー全員を同時に宛先指定できること
- ・ スケジュール機能を JavaScript/CSS でカスタマイズできること

④施設予約、備品・公用車予約・管理

- ・ 施設予約情報を電子化し、同時に多数の社員（職員）が施設のスケジュールを閲覧・登録・変更・削除することが可能なこと
- ・ 施設については、会議室・研修室などグループ分けすることができること
- ・ 施設のグループは階層化できること
- ・ 備品、公用車についてもグループ分けができること
- ・ 施設、備品ごと、または上記のグループ単位で予約可能な最大時間が設定できること
- ・ 予約可能な最大時間の他に、予約可能な期間についても施設、備品ごと、またはグループごとに設定ができること
- ・ 施設、備品、公用車に応じて、個人、組織、ロールでのアクセス権が設定できること
- ・ アクセス権の設定は施設ごとなど個別の設定の他、施設グループを対象に一括での設定が可能であること
- ・ 施設予約については、施設カテゴリごとに1日、1週間、また施設ごとに1月のスケジュールの閲覧が可能であること
- ・ 繰り返し予約が可能であること
- ・ 繰り返し予約の登録時に施設が重複している場合は重複している日時と施設があらかじめ判別でき、重複していない予約のみを登録できること
- ・ 施設、備品、公用車の予約において、時間を重複しての予約はできないこと
- ・ 施設、備品、公用車の予約において、内線番号項目や利用目的など付随する項目を自由に、別途追加可能なこと
- ・ 予約の変更は予約者のみしか変更できない、という設定が可能であること
- ・ 他人が自分の登録した予約を変更、削除した場合、通知が来ること
- ・ 施設予約は利用申請機能を有すること
- ・ 施設の利用申請機能は施設ごとに有効／無効を設定できること
- ・ 施設の利用申請を承認する運用管理者は組織／ユーザー／ロールの単位で設定できること
- ・ 運用管理者は施設単位での設定、もしくは、施設グループ単位での一括の設定ができること
- ・ 利用申請が必要な施設を予約する際には施設の利用目的の入力を必須とすること
- ・ 利用申請が必要な施設が予約された際には運用管理者の最新情報に通知されること
- ・ 運用管理者が承認／却下を行う際にコメントも登録できること
- ・ 施設の利用申請が承認／却下された場合、予約登録者の最新情報に通知されること
- ・ 施設の運用管理者は自分が処理をしなければならない申請を一覧で確認できること

- ・ 運用管理者が複数人いる場合は、誰か一人が承認すれば処理が完了となること

⑤メッセージ(内部メール)

- ・ メールサーバーを利用することなく、各社員（職員）へメッセージを送ることが可能なこと
- ・ 外部からメールで受信した内容を簡単にメッセージで内部に転送できること
- ・ メッセージにはファイルを添付することができる。また、添付されたファイルはユーザーにて一括ダウンロードが可能なこと。
- ・ 回覧板または開封確認機能に類するものを有し、送付先の閲覧日時を確認できること
- ・ 送受信者双方にてそのメッセージに対し、コメントを記入できること
- ・ 必要な場合には受信者を追加することが可能なこと。また、追加されたユーザーは過去の内容も含めて参照できること
- ・ メッセージ送信後に、内容の変更や削除が可能なこと
- ・ 新着メッセージを受信した際に、ポータル画面に通知させる機能を有すること
- ・ 通知の開封後はポータル画面から消えるが、再度そのメッセージへの書き込みがあった場合には再びポータル画面に新着通知として表示し情報伝達を確実にさせられること
- ・ メッセージ本文及びコメント欄の文字を装飾可能であること
- ・ 送信先を、役職ごと一括選択が可能であること
- ・ メッセージの差出人は差出人以外にも宛先を変更できるユーザーを指定できること
- ・ メッセージを分類するためのフォルダ分けが可能であること
- ・ メッセージの一覧画面でメッセージをドラッグ&ドロップでフォルダを移動することができること
- ・ 標題、宛先、差出人を条件として、フォルダへの自動振り分け保存ができること
- ・ メッセージ内の書き込みに対して、「いいね！」などのリアクション機能を有すること
- ・ 自分宛の通知は全体宛の通知と区別して受け取れること（メンション機能）
- ・ メンションは組織、ロール、個人に対して指定が可能であること。また、組織、ロールのメンションをクリックすると所属しているユーザーを確認できること
- ・ 複数名メンションのあるコメントで「全員に返信する」をクリックすると、メンションされていたユーザー全員を同時に宛先指定できること
- ・ 一覧画面で選択した既読のメッセージを未読に戻すことができること
- ・ メッセージを削除する際、他の受信者と送信者のフォルダーからも完全に削除される旨のポップアップを表示し、削除実行前に誤削除防止の注意喚起がされること

と

⑥ファイル管理機能

- ・ 社内ドキュメントの共有などの目的のため、ファイル管理機能を有すること
- ・ ファイルはフォルダ分けをして管理ができること
- ・ フォルダはツリー形式で管理ができること。また、フォルダツリーとファイルは画面上において別ペインで動作すること。
- ・ フォルダ単位で、個人、組織、ロールでの適切なアクセス権が設定できること
- ・ フォルダごとに運用管理者を設定でき、運用管理者は当該フォルダに限り、システム管理者と同等の管理権限を有すること
- ・ 運用管理者が、管理権限があるフォルダに対して、別の運用管理者を設定できること
- ・ 各ファイルについてはバージョン管理が設定可能で、必要に応じて過去のバージョンで文書を戻すことが可能であること
- ・ 削除したファイルおよびフォルダの復旧期間を設けることができること
- ・ バージョン管理の利用有無、設定可能な最大版数についてはシステム管理者による設定が可能であること
- ・ 編集中のファイルについては、ロックをかけることが可能であること
- ・ ファイル管理でアップロードできるファイルの容量制限が可能であること
- ・ 特定のフォルダをポータル画面に表示することが可能であること
- ・ ファイルをアップロードする際は、複数ファイルを一括でアップロード操作が行えること
- ・ ファイルをダウンロードする際は、複数ファイルを一括でダウンロード操作が行えること
- ・ フォルダごとに、ファイルの表示順をタイトル/ファイル名/更新日時で選択できること

⑦電子メール（個人メール）

- ・ 既存のメールアドレスを継続して使用できること
- ・ メールの送受信はメールサーバーを経由することとし、送受信したメールデータはグループウェアシステムに保存すること
- ・ 1ユーザーあたりのメールボックスの容量をユーザー毎に制限できること
メールボックスの容量を超過した場合、ユーザーの画面に警告が表示されること
- ・ ユーザーごとの総容量の制限は任意の数値で設定できること
- ・ 1通あたりの送受信メールの容量をユーザーごと、または全ユーザー一律で制限できること

- ・メールのステータス管理ができること
- ・一定のルールに基づき、振り分け保存が可能なこと
- ・マルチアカウントに対応しており、1人が複数のアカウントを使い分けることができること
- ・メールアドレスに紐付いて、メールの履歴が一覧で確認できること
- ・新着メールが到着した場合、ユーザーに通知する機能を有すること
また、設定により一定間隔でメールの有無をチェックすることができること
- ・作成中のメールについて一時保存できること
- ・開封確認機能を有すること
- ・UTF-8の文字コードに対応しており、外国語のメールも読むことができること
- ・メールの一覧表示画面にて、ドラッグ&ドロップでフォルダの移動ができること
- ・メールの一覧画面にて各メールのプレビューを表示できること
- ・アドレス入力欄に文字を入力すると、入力文字が一致するユーザーの表示名と所属、またはメールアドレスが、候補として表示される機能（インクリメンタルサーチ）を有すること
- ・送信メールサーバーとの通信に TLS を使用できる機能を有すること
- ・宛先アドレスを、To、CC、BCC をドラッグアンドドロップで移動する機能を有すること
- ・HTML メールに対応していること
- ・ユーザーごとにメールの画面表示を 2 ペインと 3 ペインから選択できること
- ・既読のメールを未読に戻すことができること
- ・メールの自動転送機能を有すること
- ・送信済みのメールを転送可能なこと。
- ・メールに添付された複数のファイルを一括でダウンロードできること。
- ・一覧画面から選択したメールの添付ファイルを一括で削除できること

⑧グループメール

- ・電子メール機能と同様の操作感で利用できること
- ・課の代表メールアドレスを課に所属するユーザーで共有し、送受信ができること
- ・代表メールアドレスを利用する際に、個人アカウントから代表アカウントにログインし直す必要がないこと
- ・各課の代表メールアドレスの利用できる権限をユーザー／組織／ロールを用いて設定でき、異動処理に関しても考慮されていること
- ・複数組織に兼務しているユーザーは複数の代表メールアドレスを利用できること
- ・代表メールアドレスを利用できるユーザーは任意のタイミングでメールを受信することができること

- ・ 代表メールアドレスを利用できるユーザーは、メール一覧画面から各々のメールに対して対応する担当者(以下処理担当者という)を設定できること
- ・ メール受信時、および自分がメールの処理担当者に設定された時にユーザーに対して通知ができること
- ・ 代表メールアドレスで受信したメール 1 通ごとに課に所属するユーザー間でコメントを残す機能があること
- ・ メール作成時に下書き保存ができること。また、下書き保存をしたユーザーを処理担当者として設定できること
- ・ メール送信時には送信操作を行ったユーザーを処理担当者として設定できること
- ・ システム管理者はシステム管理画面より代表メールアドレスの設定ができること
- ・ システム管理者は代表メールアドレスごとに運用管理者を設定し、運用管理者は代表メールアドレスに対する権限などをシステム管理者の代わりに設定ができること

⑨アドレス帳

- ・ ユーザー名簿(社員録)、個人用アドレス帳、共有のアドレス帳を管理できること
- ・ 共有アドレス帳は複数作成可能であり、各共有アドレス帳は個人、組織、ロールでのアクセス権の設定が可能であること
- ・ アドレス帳の項目については、必要に応じて管理者が項目を追加可能であること
- ・ 利用するアドレスを、外部・内部問わずユーザー自身でグループ化できること
- ・ ユーザー名簿については、氏名、よみ、メールアドレス、役職や任意に追加した追加項目を対象に検索ができること

⑩ワークフロー

- ・ 標準機能にてポータル・グループウェアとユーザー情報が連携しており、2重のメンテナンスが不要であること
- ・ 申請書ごとに承認者及び回覧者が設定可能であり、必要に応じて初期値の設定が可能であること
- ・ また、承認者の初期値は申請者の上長を自動的に初期値として利用することが可能であること
- ・ 申請経路設定ができること
- ・ 申請の承認／却下／差し戻しの機能を搭載しており、それぞれの操作時に申請者(差し戻し先ユーザー)に対するコメント入力が可能であること
- ・ 経路変更を許可されたユーザーのみ、申請後に申請経路の変更が可能であること
- ・ 承認者に申請処理順路が回ってきた場合は、対応承認者のポータル画面、またはメールで通知する機能を有すること

- ・ 外出先からスマートフォンを利用して承認作業ができるよう、スマートフォンからのアクセス可能な機能を標準搭載していること
- ・ 申請書の作成・管理について、運用管理の権限を委譲できること
- ・ 申請書にファイル添付が可能な項目を設定可能であること
- ・ また、申請者及び承認経路のステップ単位で添付ファイルを追加可能なアクセス権設定が可能であること
- ・ 申請書に登録されたデータ（数値）によって、承認経路を自動的に変更する機能を有すること
- ・ また、変更する条件は複数登録できること
- ・ 印刷用画面の表示が用意されており、文字サイズの変更が可能であること
- ・ 専門知識を必要とせず申請フォームの作成が可能であること
- ・ 申請書の作成画面にて、特定のユーザーによる画面表示を確認可能であること
- ・ 申請書の作成作業自体と一般ユーザーへの公開作業は、別途行うことができること
- ・ 申請フォームが XML 形式でインポート／エクスポート可能であること
- ・ 申請フォームはカテゴリ分けをすることができ、カテゴリごとに利用できるユーザーを制限することが可能であること
- ・ カテゴリ毎に運用管理権限を移譲することができ、運用管理者は申請フォームの作成・アクセス権の設定等が可能であること
- ・ カテゴリ毎の運用管理権限を CSV に出力する機能を有すること
- ・ 申請データは最終承認が終了した時点で、CSV ファイルに出力する機能を有すること
- ・ 最終承認が終了した申請は、申請カテゴリごとに公開できる設定を有すること
- ・ 承認者が、自身が承認する予定の申請を予め把握する機能を有すること
- ・ 代理ユーザーが申請者になって申請が可能であること
- ・ また、代理人が申請したことが把握できるようになっていること
- ・ 代理ユーザーが承認者になって承認が可能であること
- ・ また、代理人が承認したことが把握できるようになっていること
- ・ ワークフローは、グループウェアと同じデータベースを利用し、ユーザー管理を一括で実施できること
- ・ ワークフロー機能を JavaScript/CSS でカスタマイズできること

⑪通知一覧

- ・ ポータルページには、ユーザーごとの未読・既読の通知を簡易に確認するための「通知一覧」というポートレットを配置できること
- ・ 個人や管理者の設定により、掲示板、メール類、スケジュール、電話メモ、ワークフローの通知、新規登録文書の通知が一元的に表示できること

- ・ 一度見た情報は「未読」欄から「既読」欄に移行し、常に未読・既読の表示切り替えが可能であること
- ・ 未処理のワークフローや未確認の電話メモ等、一部の重要な通知は確認後も未処理の場合は、最新情報（「未読」欄）から消えないこと
- ・ 内容を読んでいない通知についても、チェックボックスで選択すると、既読扱いにすることができること
- ・ システム管理者は、通知情報の機能別の表示有無、表示件数、表示順を任意に設定できること

⑫電話(伝言)メモ

- ・ 外出中の電話の連絡など、特定のユーザーにメモを残すことができること
- ・ メモの登録時には、フォーマットが用意されており、登録の負荷が軽減できること
- ・ 電話メモを登録されたユーザーは、個人の設定により任意のメールアドレスに内容を転送できること
- ・ ユーザーは送信した電話メモを一覧で見ることができること
- ・ ユーザーの現在の予定を表示する機能を有すること

⑬お気に入り(ブックマーク機能)

- ・ ユーザーはよく利用する情報に関してお気に入りとして登録することができること
- ・ ユーザーはお気に入りに登録した情報を一覧表示することができること
- ・ お気に入りに登録した情報は、機能別に一覧表示することができること
- ・ システム管理者は、ユーザーがお気に入りに登録できる件数を制限できること

⑭スペース機能

- ・ プロジェクトや部署など特定のグループで共有できるスペースを作成できること
- ・ スペース作成時には、当該スペースへの参加者を設定できること
- ・ スペースのメンバーには、ユーザーに加えて、組織、ロールを設定できること
- ・ 参加者はスペース作成後も必要に応じて変更できること
- ・ 過去に作成したスペースを再利用して、新たなスペースを作成できること
- ・ スペース毎に公開、非公開の設定ができること
- ・ 公開方法の初期値（公開または非公開）を、システム管理者が設定できること
- ・ スペースは目的に応じてカテゴリに分類することができること
- ・ スペースごとに、参加者内で利用できるディスカッションスレッドを作成できること
- ・ スペースごとに管理者を設けることができ、管理者はスペースの削除、ディスカッ

ションスレッドの削除、コメントの削除、参加メンバーの変更が行えること

- ・ スペースの作成または変更時に、メンバーの参加および退会を許可するかどうかを設定できること
- ・ ディスカッションスレッドは複数作成が可能なこと
- ・ 複数のディスカッションスレッドを一括で削除できること。
- ・ スペース内の書き込みに対して、「いいね！」などのリアクション機能を有すること
なお、リアクションの内容は管理者が設定できること
- ・ スペースの参加者は、ToDo(タスク)を設定でき、ToDo には期限及び ToDo の担当者をスペースの参加者から設定できること
- ・ スペースの参加者はスペースで管理されている ToDo の状況を一覧で確認できること
ToDo の状況に関しては、遅延/当日締切/期間内などのステータスと ToDo の数を担当者別で確認できることとする
- ・ ToDo は ToDo 名と担当で検索できること
- ・ ToDo を変更する際に、ToDo のステータスを未完了に戻すかどうかを設定できること
- ・ 自分が参加しているスペースのディスカッションなどに更新があれば、新着通知が把握できること
- ・ ディスカッションの変更、移動時には更新通知を送信するかどうかを設定できること
- ・ ディスカッションはほかのスペースに移動することができること
- ・ ディスカッションを分類するためのフォルダ機能を有すること
- ・ 自分が参加していないスペースの通知を受け取る設定ができること
- ・ ディスカッションを閲覧している際に新たな書き込みが行われた場合は、画面上で認識できること
- ・ 自分宛の通知は全体宛の通知と区別して受け取れること（メンション機能）
- ・ メンションは組織、ロール、個人に対して指定が可能であること
- ・ なお、組織、ロールのメンションをクリックすると所属しているユーザーを確認できること
- ・ 複数名メンションのあるコメントで「全員に返信する」をクリックすると、メンションされていたユーザー全員を同時に宛先指定できること
- ・ 共有 ToDo のコメントで自分が宛先に指定されると、ヘッダーの最新情報や「通知一覧」に、自分宛の通知として表示されること
- ・ スペースの管理者は管理権限を有するスペースの使用期限を設定できること
- ・ なお、使用期限が切れると「使用期限切れ」のスペースに自動的に分類され、使用期間中のスペースと区別ができること
- ・ システム管理者が期限内/期限切れのスペースを一括で削除できること

⑮マルチレポート(報告書)機能

- ・ ユーザーが、会議の議事録や報告を行うレポートを作成、下書き保存ができること
- ・ 作成したレポートは、スケジュールと関連付けられること
- ・ レポート作成の際に、アドレス帳に登録したアドレスと関連付けられること
- ・ アドレスと関連付けしたレポートはアドレスごとに履歴を一覧表示できること
- ・ レポート作成者は作成したレポートを通知するユーザーを選択できること
- ・ レポート作成者は作成したレポートの公開可否を選択でき、公開する場合は公開先のユーザーを指定することができること
- ・ レポートを記載するフォーマットは、必要に応じて容易に作成できること
- ・ レポートを記載するフォーマットは、複数作成できること
- ・ レポートを記載するフォーマットは、必要に応じてカテゴリ分けができること
- ・ システム管理者は、「絞り込み」を設定することができること
- ・ レポートにコメント機能を有していること
- ・ 管理画面で、レポートを CSV ファイルに書き出す機能を有すること

⑯固定ヘッダー機能

- ・ グループウェア内のどの画面でも常に上部に専用のヘッダーが表示できること
- ・ 固定ヘッダーでは最新情報を表示できること
- ・ 固定ヘッダーの最新情報では、未確認の通知件数を表示できること

⑰リマインダー機能

- ・ 最新情報エリアに届く新着・未読情報をポップアップウィンドウでデスクトップ上に通知できる機能を有すること
- ・ 「スケジュール」に登録した予定の開始時刻が近づくと、ポップアップウィンドウで通知できる機能を有すること
- ・ 通知のタイミングは、自由に設定できること
- ・ ブラウザを起動していなくてもポップアップで新着情報が表示されること
- ・ Windows OS および Macintosh OS で利用できること
- ・ クライアント PC にインストールしたモジュールは都度バージョンアップ作業が発生しないこと（自動更新できること）
- ・ 日英中の三ヶ国語に対応すること

⑱モバイル機能

- ・ スマートフォン等のモバイル端末から利用する場合に専用画面を提供すること

- ・ モバイル端末からのアクセス時、PC 用画面とスマートフォン専用画面を容易に切り替えて使えること
- ・ 専用アプリを利用する場合は、ユーザー、組織、ロール単位で機能ごとの使用権限を設定できること
- ・ モバイル端末ホーム画面のアプリアイコン上に未読通知件数をバッジ表示できること

以上